



循環型社会の実現を目指して

地球にある限られた資源を最大限有効に活用するための技術の活用、産学官連携による地域特有の発生廃棄物の再利用方法検討などを進めています。

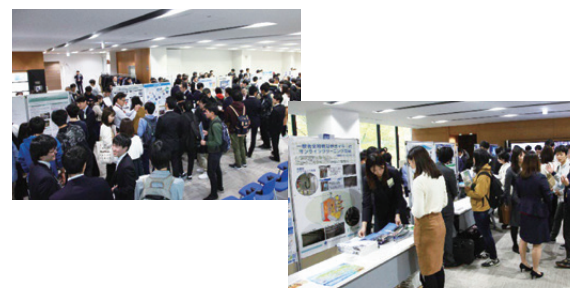


循環型社会の形成に向けたパートナーシップの実現

当社は、北海道大学循環共生システム研究室の寄附講座の研究会へ参画しています。

研究会では「バイオマスコミュニティプランニング」というキーワードをテーマにバイオマスを通じた地域づくり、あるべき姿を実現するための課題抽出などに、自治体も含めた産官学の体制で研究活動を継続しています。

地域から排出される廃棄物を、どのように地域独自の形態で循環させ有効利用するかを、現状の問題と計画、その先の未来の姿を思い描きながら建設会社の視点でサーキュラーエコノミーに資する活動を行っています。



自然と共生する社会の実現を目指して

建設事業活動を行う上では、当該地域のみならず、より広域な範囲での自然・生物への配慮、調和性への考慮が必要と捉え、技術革新と共に新たな生物多様性の創出を目指します。



緑の森林プロジェクト

自然の豊かな恵みを未来の子どもたちに引き継ぐため、計画的な森林整備と道産木材の利用推進等に取り組んでいます



当社では、森林をフィールドとしたCSR活動を「緑の森林プロジェクト」と名付け活動を行っています。

計画的な森林整備は、脱炭素社会・生物多様性保全への貢献、林業・木材産業の振興、水源涵養機能の維持増進、地域の強靱化（土砂災害防止）、海洋環境の保全などにつながる大切な活動です。

2022年度は、脱炭素社会・循環型社会の実現に向けた地域振興の一環として、北海道岩見沢市にある、万字線鉄道公園の隣地でエゾヤマザクラの記念植樹を行いました。

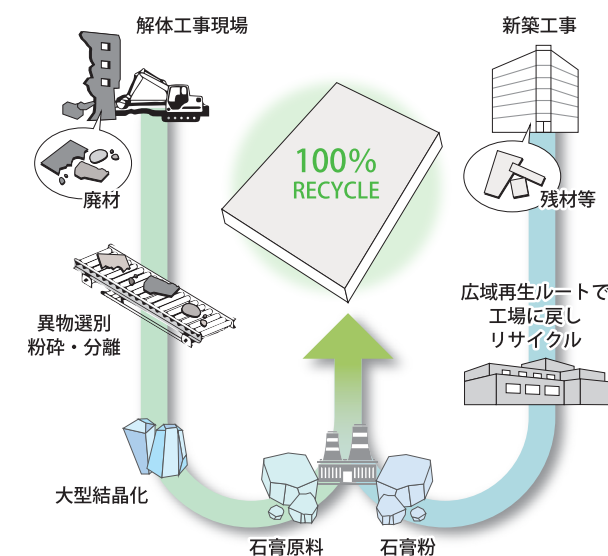
里山の樹林は適切な管理をせず放置すると、山の地表に日光が届かず草木の根が張らないため、土が痩せていきます。間伐した木材を地域に還元できる形で利用し、炭素の固定源である森林の維持管理と拡大をさせる活動、そのノウハウを蓄積することで持続可能な活動を目指しています。

廃棄物のリサイクル推進事例

石膏ボードは壁と天井の下地としてほとんどの建物に使用されており、解体工事にともない多くの廃石膏ボードが産業廃棄物となりますが、解体系廃石膏ボードの再資源化率は低い廃棄物です。

そこで当社は環境省の認定を受けた広域再生ルートでの廃石膏ボードの再生利用量の向上を図っています。広域再生ルートには処理にあたりマニフェストが必要なく、都道府県をまたがった越境移動ができるというメリットがありますので、広域的な視点で見ると再利用率が上がります。

当社は廃棄物の循環利用という観点で、積極的に建設資材の再資源化・再利用の方法を模索していきます。



緑の水田プロジェクト

生物多様性を守り 米の消費拡大や地域産業の活性化を促進する



「緑の水田プロジェクト」は、休耕となっている水田を甦らせ、ニホンアマガエル・コモリグモ・アキアカネ・イトミミズ・ドジョウ・アメンボ・カブトエビ・ホウネンエビ、等多くの生物が生息する水田の生物多様性を保全することを目的としています。

コロナ禍の影響により3年ぶりの開催となった今回は、雨が降った影響により、田んぼのぬかるみに足を取られ、歩くのも一苦労でしたが、参加者一同気持ちよく汗を流しながら、黄金色に実った1反(約300坪)の稲を1時間半ほどで刈り終えました。

米は、その栽培過程で88の工程があるということから、その字の成り立ちがあるといわれるほど煩雑で膨大な工程からなります。

当社では、こういったプロジェクトを新入社員への環境教育の場にも活用し「ものづくりの原点」や「日本人の主食たる米の食文化」を学んでいます。

2022年10月活動「稲刈り」